

国土交通省九州地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課



【お話】
九州地方整備局 港湾空港部
海洋環境・技術課長
尾田 忠さん

Q1 九州地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課（以下、「海洋環境・技術課」とは？

海洋環境・技術課は、「国が行う海洋の汚染の防除」、「港湾の環境の整備及び保全に関する計画」、「技術の開発並びに技術の指導及び成果の普及」、「船舶及び機器の整備及び運用」に関する業務を所掌する課となります。

具体的には、一般海域の浮遊油や浮遊物の回収、ブルーインフラの整備・普及、i-Construction・インフラDXなど新技術の開発、再エネ海洋利用法に関する洋上風力発電、事業実施に伴う環境影響評価の手続き、所有している船舶の建造・修理に関わる業務、産学官が連携した「新技術・新工法説明会」の開催などに多岐にわたる業務を担当しています。

現在、課の所属職員は8名でこれらの業務を行っています。



Q2 地域的な特色や取り組みなどを教えてください

当課の特色有る業務としては、全国に3船配備されている大型浚渫兼油回収船の1隻「海翔丸」^{かいしょうまる}（全長103m、総トン数4,659t）、3隻の海洋環境整備船「がんりゅう」^{がんりゅう}（全長32.3m、総トン数195t）、「海輝」^{かいき}（全長29.5m、総トン数99t：旧型、120t：新型）、「海煌」^{かいこう}（全長35m、総トン数195t）の運航調整にかかる業務があります。海翔丸、がんりゅうは瀬戸内海（周防灘）、海輝、海煌は有明・八代海及び橘湾を担務海域としており、開発保全航路の整備、油・漂流物の回収、海域環境の調査を行っています。有事の際は、要請により他の地方整備局の管轄海域や一般海域への支援に向かうこともあります。また、例



回収物の移送状況



回収物の積込状況



起重機船による運搬状況

連携回収作業の様子（令和7年8月31日実施）
【国土交通省九州地方整備局撮影】

年、出水期の後の秋口に関係機関と連携して浅海域での漂流物回収を実施しています。

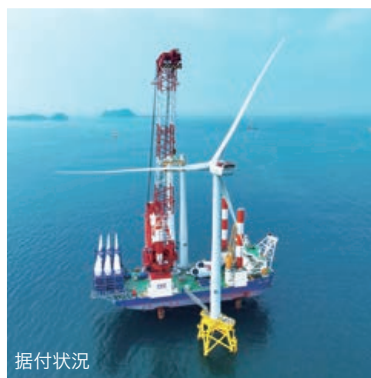
近年は、豪雨災害の激甚化・頻発化もあり、特に出水期の対応には気を配る必要があります。航行船舶の安全確保のため、流木等の漂流物の速やかな回収作業の実施に取り組んでいます。令和7年8月31日には、国、福岡県、有明海沿岸4市（大川市、柳川市、みやま市、大牟田市）及び福岡有明海漁業協同組合連

合会、(一社)日本埋立浚渫協会が協力し、浅海域の漂流物回収を実施し、漁船77隻、起重機船、海輝、海煌が連携した作業を行い、約470㎡の漂流物を回収しました。

港湾分野においては、洋上風力発電の導入支援にも取り組んでいます。九州では、再エネ海域利用法に基づき、長崎県五島市沖が第1号案件として選定され、浮体式洋上風力発電の整備が進められています。また、北九州港響灘地区では、港湾区域内での着床式洋上風力発電の導入が進展しており、耐荷重性の高いふ頭を活用した発電設備の建設が完了し、運転開始に向けた準備が進められています。これらの取り組みは、港湾が再生可能エネルギーの拠点として機能することを目指したものです。

また、我が国の港湾分野におけるエネルギーの安定供給と脱炭素化は、国際物流の競争力維持や地域経済の持続的発展に直結する重要な課題です。この課題に対応するため、国や自治体、港湾管理者は、岸壁や荷役設備への再生可能エネルギーの導入、港湾施設の電化・省エネ化、さらには陸上電源設備(AMP)

の整備による船舶の停泊時の排出削減などに取り組んでいます。水素・アンモニアなどの次世代燃料の受入体制の整備や、港湾物流の効率化を通じたCO₂排出量の削減も推進されており、港湾が地域の



据付状況



基地港湾(北九州港)



設置状況

北九州港響灘地区洋上風力発電施設設置の様子
[ひびきwindエネルギー(株)提供]

脱炭素化拠点として機能することを目指しています。

Q3 技術的な課題への取り組みについて教えてください

海洋環境分野においては、海洋環境整備船では回収が難しい漂流物の技術の検討(海洋短波レーダーを活用した浮遊ゴミ移動予想システム)や水域施設の埋没対策の検討、新技術導入促進の検討などに取り組んでいます。

また、湾内の藻場や干潟など、海洋生態系によるCO₂吸収源の保全・再生を目的として、博多港では、カルシア改質土を用いた浅場造成、北九州港の新門司2期臨海造成地では、環境配慮型ブロックを採用した藻場造成、熊本港では浚渫土砂を活用した人工干潟の造成などが行われています。

さらに、当課では災害時被災状況の確認での活用可能なUAV(ドローン)操縦の担い手育成に取り組んでいます。昨年度、整備局内部の資格ではありますがUAV教官1名を育て、今年度はUAV飛行ができるよう職員を訓練し、若手職員3名が内部資格保有者となりました。各事務所に対しても教育も兼ねて講習会を開催し、UAVに関する法律等を勉強する機会を創出しています。将来的には、各整備事務所にドローンを配備して、施設点検に活用したいと考えています。

Q4 整備局での暮らし方は?

通勤はJR等の公共交通機関の利用が主となります。博多駅から徒歩10分かかる場所に庁舎があり、アクセスの利便性は非常に高いです。庁舎のある福岡市から約70km離れた北九州市の自宅から通勤する私の所要時間は、ドアtoドアで約1時間強程度と特に負担に感じることはありません。

昼食は弁当の方が多いと思います。食事に困らない駅に近い立地でも、待ち時間と値段を加味して選択しているのではないのでしょうか。

最近は業務改善の取組も進み、残業時間も減少傾向にあります。課員もワークライフバランスを意識し、メリハリのある業務の執行を心掛け、家族サービスや趣味に上手く時間を充てているようです。

Q5 当センターへのご意見

港湾や空港分野の技術的課題について、実践的かつ先進的な解決策を提供していただいていると思います。現場のニーズに応える「技術の橋渡し役」としての役割を期待しています。

特に、九州地方整備局管内は、航路・泊地が埋没する港湾が多いので、浚渫土砂を有効活用したコスト削減方策等の実現可能な方策の検討が課題となっています。